



## コロナ禍における女性の負担軽減を

こばやし  
小林ひとみ 議員



## 生理の貧困も含め、男女平等の社会づくりに取り組む



**問** 女性の雇用状況は。

**答** 非正規雇用労働者数のうち、特に25歳から44歳までの年代が大きく減少している。要因としては、新型コロナウイルス感染症の拡大による雇止めなどの影響が考えられ、女性を取り巻く雇用情勢の悪化が懸念される。

**問** ひとり親家庭の経済状況は。

**答** 母子世帯の稼働所得は、児童のいる世帯全体と比較して3分の1程度となっている。

**問** 防災備蓄品の生理用品を必要な方に配布する考えは。

**答** 防災備蓄品の一部は使用期限などを考慮して配布しているが、生理用品は比較的新しい物が多いため、現時点では難しい。  
**問** 小・中学校や公共施設の個室トイレに生理用品を無償で提

供する考えは。

**答** 小・中学校では保健室に常備している。公共施設の個室トイレで無償提供する予定はない。

**問** 全国各地で困窮者への無償配布や公立高校のトイレへの配備が発表された。生理の貧困に対する市の見解は。

**答** 男女共同参画への理解が進んでいないことが課題と捉えている。生理の貧困も含め、男女平等の社会づくりに取り組む。

◎**その他の質問** 子どもや若者の孤独・孤立対策を



## 企業誘致の現状と展望

はせがわ  
長谷川

きよし  
清 議員



しっかりとやってみよう

**問** 近隣他市においては既に、企業誘致による人口増加策を積極的に展開している。

**答** 本市もいわゆる開発許可等の基準に関する条例の一部が改正され、高倉及び三ツ木地域内で条件に該当する土地の開発が可能となったが、企業誘致できる土地はどのくらいあるのか。

**問** 現段階で候補地は4か所ある。地権者の土地利用の意向によって決まってくる。

**答** 高倉及び三ツ木地域においては、当該条例に適合する土地は非常に少なく、このままではせっかくの条例改正が活かされず、この地域と本市の未来はない。農振農用地（青地）の転用

の方法は。

**答** 短期間に判断することも可能な一筆ごとの転用と、長期的にはなるが、埼玉県との協議等が必要な整備計画の改定による転用の2通りの方法がある。

**問** 農振農用地（青地）の転用に必要なのは、市長自身がこの地域も含め、本市全体の都市計画や農業政策に関して、より具体的な方針を示すとともに、埼玉県との粘り強い交渉と協議を重ねることであるが、市長は「やる気」があるのか。

**答** 難しい状況もあるが、しっかりとやってみよう。



工事中の国道407号バイパス